

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

令和2年1月30日
村山 章

日本は若者の自殺率が世界一だそうです。一昨日も中一の女子生徒二人が10階から飛び降りたと新聞に載っていました。大人になれば知人はたくさん存在します。家族、親戚、友人、同級生、そして会社の同僚、上司、部下など、人的交流がさらに知人の範囲を広げていきます。気心の知れた仲間がたくさんいれば日々楽しい人生となりますね。就学前の幼い子供にとっては母親そして父親の存在がどうしても重くなります。どんなに母親が怒っても、幼い子供は泣きながら母親に抱きつくしか方法はありません。小学生以上になれば同級生と一緒に遊んだり勉強したりする機会が増えていきます。しかし学校は学ぶ所ですからストレスも伴います。子供の話をできるだけ一杯聞いてあげて家庭でストレスを発散させてあげなければいけません。確かに精神的苦痛はときに死を超えてしまうこともあると思いますが、家族の絆が強ければ若者の自殺は半減するのではないのでしょうか。私たちの世代は、物の豊かさを求めて親は必死で働き、子供は少しでも大きな会社に入るために疑う間もなく勉強をさせられたのだと思います。私も反省しなければいけません。もっともっと家族との時間を長くとらなければいけなかった。子供は本当に大切に思っていましたが一緒の時間は少なかった。孤独が一番の精神的負担になりますから、家族で温かな感情に満ちた世界を満喫すべきだったと思います。子供に勝る宝物はありませんし、孫の可愛いさには神秘的なものを感じます。元々人の世はそんなふうに出てくる訳ですから家族の絆を大切にいたしましょう。一方で、セーフティネットとして子供たちを救う色んなNPO法人がありますし、最近では、子供一人でも入れて栄養のある食事を無料や安価で提供する「こども食堂」のネットワークまでできているようで素晴らしいですね。少しでも孤立しているような子供が周りにいたら積極的にそうした組織に相談しましょう。